

平成29年度教育事業 通学合宿  
in 曾爾青少年自然の家



1. ねらい

- ①基本的な生活習慣と学習態度の確立を図る。
- ②参加者間の交流を深めコミュニケーション能力の育成を図る。
- ③栄養バランスのとれた正しい食習慣を養う。

2. 実施日

平成30年1月24日(水)～1月27日(土)

【3泊4日】

3. 対象者

曾爾村立曾爾小学校3～6年児童  
御杖村立御杖小学校3～6年児童

4. 参加者 / 募集定員

15名(曾爾小:10名、御杖小:5名) / 20名

5. プログラム(要約)

家族から離れ異なる学校・学年で朝食の準備・片付け、洗濯、そうじ、入浴などの集団宿泊生活や宿題や自主学習などの学習活動を通して、基本的な生活習慣や学習態度を身につけると共に、カブラ大会、星座観察会、発砲スチロールグライダー作りのクラフト体験、手打ちうどんとケーキ作りの炊飯活動などにより、参加者間の交流を深めコミュニケーション能力の育成を図った。また、夕食は、食堂バイキングを利用して栄養バランスのとれた正しい食習慣を養った。



スケジュール

1月24日(水)

(学校生活)

オリエンテーション  
宿泊部屋作り  
タベのつどい  
夕食(食堂バイキング)  
宿題・洗濯・朝ご飯の準備  
カブラ大会  
お風呂・就寝準備



1月25日(木)

朝ご飯の準備

朝食(わかめご飯、ハムエッグ、みそ汁、サラダ)

朝のつどい

(学校生活)

タベのつどい

夕食(食堂バイキング)

宿題・洗濯・朝ご飯の準備

星座観察～冬の大三角を見つけよう～

お風呂・就寝準備



1月26日(金)

朝ご飯の準備

朝食(さけご飯、スクランブルエッグ、ソーセージ、コーンクリームスープ、サラダ)

朝のつどい

(学校生活)

タベのつどい

夕食(食堂バイキング)

宿題・洗濯

発砲スチロールグライダー作り

お風呂・就寝準備



1月27日(土)

朝のつどい

部屋の掃除・片付け

朝食(食堂バイキング)

炊飯(釜玉うどん作り

・チーズケーキ作り)

終わりの会～振り返り～



1月24日(水)【1日目】

学校生活を終了後、曾爾小学校・御杖小学校の各学校より自然の家のバスに乗車して、自然の家に集合した。参加者に、あまり緊張した様子はなく、移動の車中でも学校のこと、家のこと、通学合宿で楽しみにしていることなどたくさん話をしてくれた。

オリエンテーションで、通学合宿のめあて(友だちを思いやり、話し合い協力して生活すること)(友だちのいいところを見つけて、真似すること)(時間を大切に、自分で考えて生活すること)を確認した後、「朝自分で起きられるようになりたい。」「洗濯を上手にできるようになりたい。」「朝ご飯の準備をがんばりたい。」「新しい友だちを作りたい。」など参加



者各自のめあてを発表した。二つの学校は、一緒に授業や行事を行うことも多く、同学年の友だちの名前と顔は知っていたので、すぐにうち解けることができた。

オリエンテーション後、ベッドメイキング、着替え、洗濯、宿題、翌日の朝食の準備などに取りかかった。洗濯物を干すという経験はあまりしたことがないようで、シャツの襟元や袖口、靴下などを乾きやすいように真っ直ぐに伸ばすということを意識しない児童が多かった。逆にお米を研いだり、野菜を洗ったりという経験は家ですることも多く、手際よくすることができた。宿題や翌日の時間割などの準備は、日頃から主体的にできているように感じた。



夕食後、全員が翌日のための全ての準備を済ませてから、一日目のおたのしみ活動のカプラ大会を行った。前半は「一分間で高く積もう!」「三分間で高く積もう! (ペア)」など、大会形式で行った。後半は、自由に個人・グループで作品作りをして、最後にお互いの作品を鑑賞して終わった。参加者は、カプラのおもしろさを知り、二日目以降も、自由時間にカプラを楽しむことが多かった。お風呂に入り、就寝準備をして、午後10時に消灯・就寝した。しばらくは、話し声が聞こえる部屋もあったが、午後10時30分ぐらいには、ほぼ全員が眠りについた。

## 1月25日(木)【2日目】

起床時間は、6時だったが、5時30分くらいから動き始める子もいた。早起きした子は、自主的に予定より早くエコロジーホールに来て、配膳など朝食の準備に取りかかった。全員が、6時までに自分で起床して、朝の身支度を短時間で済ませ、6時10分には、朝食作りに取りかかることができた。活動班ごとに、



フライパンでハムエッグを作り、わかめご飯とお味噌汁の配膳をし、6時30分から全員そろって食べ始めた。「いつもは、パンと牛乳だけだけど・・・」「自分で焼いた目玉焼きはおいしい。」と全員がほぼ残すこともなく、6時50分にごちそうさまをして、片付けをした。歯みがきをして、ランドセルを背負って、7時から朝のつどい(出発式)を行った。健康観察をすると、全員が「とても元気、絶好調」もしくは「いつも通り元気」のどちらかに挙手して、元気に登校した。

夕方、もう、自然の家が家のように「ただいま」と宿泊棟に帰ってきた。2日目は、1日目より洗濯や朝食の準備もスムーズに主体的に行うことができた。特に、男子は、自分のすべき事を手早く終えて、友だちと自由遊びをたくさんしたいという思いがあったので率先して行った。しかし、自分の持ち物の管理、荷物の整理整頓は苦手なようで、部屋の中は、衣類が散乱していた。自分の荷物コーナーを決めて整頓するように声かけをした。



2日目のお楽しみ活動は、星座観察だった。望遠鏡で、半月の観測を行った。「うわあーすごい。これがクレーターかぁ。」「むっちゃ、きれい。」初めて望遠鏡で月を見る子が多く、月面の様子に歓声を上げた。パソコンとプロジェクターを利用したプラネタリウムで冬の大三角とオリオン座の学習をした後、外に出て星の観察を行った。ベテルギウスとシリウスの星の色の違いに気づくこともできた。

午後10時の就寝予定だったが、少し疲れも出始めてきたのか10時前から眠り始める子もいて、他の子も消灯と同時に眠りに就くことができた。

## 1月26日(金)【3日目】

2日目のように、6時前から動き始める子はいなかったが、全員が、「6時ですよ。」の声ですぐに目を覚まし、活動を始めることができた。朝食の準備も2回目だったので、配膳など初日よりさらにスムーズになりスクランブルエッグは、順番に一人ずつ作った。全員がしっかり朝食を食べ元気に登校できた。

夕方、学校へ迎えに行くと、子どもたちは「早く、自然の家へ行きたい。」と声をあげた。「家に帰ると自然の家に帰るとどっちがいい?」と聞くと「自然の家!」と返ってきた。「そろそろ、家に帰りたく

ない？」と聞くと、「ちょっとだけ、帰りたい。」と本音もチラリみせてくれた。

夕食後、いつものように宿題、洗濯物たたみ、荷物の整理をした後、お楽しみ活動として、発泡スチロールペーパーを使ったグライダー作りをした。後半は、作ったグライダーをプレイホールで飛ばして遊んだ。



入浴後、女子は、全員が一つの部屋に集まり、最後の夜を惜しむかのように就寝時間までワイワイ歌や話で盛り上がっていた。

### 1月27日(土)【4日目】

いつもの朝より30分ゆくゆくと眠り、6時30分のチャイムで全員が起床した。朝のつどいまでの1時間で、シーツの返却、布団の片付け、荷物の整理、部屋の掃除をした。シーツを畳んだり、布団を整えたりする作業は、友だちと協力したり、助け合ったりする姿が見受けられた。その光景から3日間生活を共にした仲間意識の高まりを見て取ることができた。トイレや廊下などの共用部分の掃除は特に役割分担など話し合う時間を設けなかったが、全員で協力して、短時間で手際よくすることができた。



朝食後、最後のお楽しみ活動として、活動班に分かれて釜玉うどんとチーズケーキ作りを行った。うどん作りでは、中力粉と水をこねて、団子状態にする作業で、水加減がうまくいかず、苦勞する児童も見られたが、後半の麺をのばす・麺を切る作業は全員が丁寧に上手にすることができ、腰のあるおいしい釜玉うどんを食べることができた。炊飯器を使ったチーズケーキ作りも大成功で、4日間のがんばりを称えるご褒美のデザートとなった。

閉会式で、通学合宿の三つのめあてと自分のめあてを達成することができたかについて振り返り、活動を終えた。



### 6. まとめ

参加者は食べ物の好き嫌い、偏食の激しい子、眠る時間が不規則で朝起きるのが苦手な子、何でも親任せになっている子など様々な課題や自立へ向けためあてをもって、この通学合宿に参加してきた。家と自然の家の大きな違いは次の3点だと活動を終えて感じた。

- ・保護者がいない  
→ (自分でせざるを得ない)
- ・テレビ・ゲームなど甘い誘惑がない  
→ (時間が生まれる)
- ・集団生活でわがままがきかない  
→ (がまんせざるを得ない)

これでは、子どもたちは、我慢をしてばかりでストレスが貯まるかというそういう訳ではなく、自然の家には、活動をサポートする職員・ボランティア、そして活動をしていく上で一番大きな力となる友だち・なかまがいるから、自然の家での生活は、苦しく大変な所も多いけど喜びも多く、充実感・達成感を味わうことができると考える。

4日間の通学合宿だけで、参加者の基本的な生活習慣と学習態度の確立が達成できるわけではないが、生活習慣を改め、確立するきっかけとなったと思う。

また、4日間寝食を共にして新たな友だちの一面を発見し、友だちを見つめ直し、友だち関係をさらに深め、自分を見つめ直す機会にもなったと考える。

今年度は、3年生から5年生の児童が参加したが、2名の5年生が、3年生、4年生のお手本となり、自然と活動の中心となって動くことができた。よい縦のつながりも生まれたように感じる。来年度も通学合宿に参加して、さらに成長した姿を見せてほしい。

(企画指導専門職 田中 耕司)

